

北海道教育委員会教育長 様

北海道栗山高等学校長 坂上 大介

次のとおり令和7度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

全ての教育活動において、生徒が生き生きと自主的に学び、将来にわたって学び続けようとする意欲を高めることができる環境作りを、生徒を主語とした視点で捉え実践する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

| 評価項目 | 自己評価の結果 | 学校関係者評価の結果 |
|-----------|--|--|
| 教育目標・学校評価 | <ul style="list-style-type: none"> 教育目標の設定については、概ね理解されており、教職員の協働体制や情報共有において、学校全体で取り組む姿勢が見られるようになった。 令和の新しい学校教育を踏まえた改善に継続的に取り組む必要がある。ICTを活用した授業改善に向けて研修を重ねて、職員のレベルアップを図ることが来た。 働き方改革については時間外勤務時間の縮減が見られているが、今後も継続していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 教育目標が生徒の実態、地域等の要望を踏まえている点について、良好な評価を得ている反面、自己評価が昨年度より低下している部分は改善が必要である。 協働意識が形成されている点について自己評価が高く、自己評価も適切であると評価していただいた。 次年度以降については、職員の定数が減ることから、引き続き教員の仕事量の平準化が課題であるとともに働き方改革を継続的に進める必要がある。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> 次年度も働き方改革を推進し、ICTを積極的に活用するための研修を計画的に実施する。 学校設定科目である「栗山と福祉」の充実を図るため、北海道介護福祉学校等と密に連携し、福祉教育及びキャリア教育の充実を図り、信頼される学校づくりを推進する。 職員でスクールミッションを共有し、教育目標の実現に向けた協働する力を向上させる。 分掌主体業務とプロジェクト型業務を両立し、業務の平準化を図るとともに、働き方改革を推進する。 | |
| 教育課程・学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> 校内研修を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善は概ね実施できた。 ICTを活用した授業展開も増え、生徒の情報活用能力も向上している。次年度もICT機器の利活用に関する研修を継続し、さらなる授業改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 「令和の日本型学校教育」の実現に向け、ICT機器の運用能力を義務教育学校と連携を深める必要がある。 ICT機器の導入における活用及び学力向上に向けた指導方法の工夫改善が必要である。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> 「令和の日本型学校教育」を念頭に置き、相互の授業参観や研修を通し、授業改善を行う。 スタディサプリを効果的に活用するために、研修の機会を継続的に設ける。 ICT機器を積極的に使用し、生徒の学力向上に向けた授業の工夫を継続する。 | |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた計画的な進路指導を実践することができた。 生徒の特徴や適性を見極め、進路情報を提供し、多様な進路希望の生徒に対応している。 資格取得のために検定試験の受検者が少なく、受検生増加に向けた方策を考える必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己評価は厳しくしているが、生徒アンケートから、評価できるとの声いただいた。 保護者の低評価が気になることのご指摘をいただいた。 高校での進路の取組や結果の情報を中学生に積極的に提供すべきとの声をいただいた。 一人一人が自分自身の将来について探究する活動を取り入れて、一人一人が自己理解を深める琴ができる取組を希望している。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年で適切なタイミングで進路ガイダンスを実施する。 学年と進路指導部の連携を密にし、生徒個々の進路実現に向け適切に対応する。 保護者アンケートの低評価部分の改善を継続的に行う。 | |

| | | |
|--------|--|--|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的な生徒指導について見直しを図り、自己評価の達成状況は高くなっている。 ・生徒会活動を通して、豊かな心の育成が図られている。 ・教育相談週間や高校生ステップアッププログラムの導入及び校内研修、傾聴活動等により、教員の生徒理解が進んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導全般において、自己評価も高く、自己評価の適切さも高い評価を得られている。 ・いじめの防止には子どもたちの心が健やかに育つことが何よりも大切なことであり、相談しやすい学校（教職員）の雰囲気醸成が必要である。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部を中心に、教職員の共通理解に基づく、統一した指導の徹底を図る。 ・保護者や関係機関との連携を密にし、問題の早期発見に務める。 ・スクールカウンセラー等を活用し、コミュニケーション力の育成を図る。 ・生徒会活動を活性化し、学校行事等を通して自己肯定感の育成を図る。 ・保護者アンケートの低評価部分の改善を継続的に行う。 | |
| 保健管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な感染症対策を継続的に実施するとともに、地域の感染状況を把握し適切な指導を行っている。 ・保健だより等が定期的に発行され、周知が徹底されている。また、「健康かわら版」をGoogle Classroomを活用して、教職員に周知している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の健康の保持増進について、取組の継続が期待されている。 ・保健だより等により周知が徹底されている。 ・学校前庭の雑草が気になるときがあるとのご指摘をいただいた。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な活動を促して、ボランティア清掃等を次年度も継続する。 ・保護者アンケートの低評価部分の改善を継続的に行う。 | |
| 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直しを行い、危機管理体制の整備を図った。 ・教職員・生徒の安全対応能力向上を図る取組は予定どおり実施できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安心・安全を優先した安全管理の取組が継続されている。 ・危機管理マニュアルの見直しを行い、職員の危機管理意識の高揚を図る。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル等の定期的な見直しを行うとともに、教職員への周知を徹底する。 ・教職員・生徒の安全対応能力向上を図る取組を継続する。 | |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を活用し、生徒の支援を組織的に行うことができた。 ・生徒の特性に応じて、計画的な支援体制をとり、継続的な支援を行ってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・町の特別支援教育推進協議会との連携が、引き続き求められている。 ・今後中高との連携が一層必要になっていく。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を図りながら、校内体制の整備と教員の専門性向上を図る取組を進める。 ・生徒の多様化により、保護者への発信・説明が重要となるため、保護者との連携を深める。 | |
| 組織運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理職からの日常からの声かけや日報による情報提供等により業務上の報告・連絡・相談がしやすく、円滑な学校運営ができています。 ・時間外勤務縮減週間の導入や教職員の働き方改革への意識が向上し、時間外勤務が改善されてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした高校づくりが、より一層求められている。 ・間口減も想定した効率的な学校運営が求められている。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な学校運営を行う事により、時間外勤務の縮減を図る。 ・ICT化やペーパーレス化を推し進め、働き方改革を促進する。 | |
| 情報提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPを活用して、広報活動に力を注いでいく。 ・安心メールの導入により、生徒及び保護者に適宜必要な情報が提供できた。 ・町の広報紙で生徒の活動紹介を実施できた。来年度も町の広報と連携して進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPが見やすく改善が図られた。 ・引き続き、学校の取組を積極的に発信し、地域にアピールしていくことが期待されている。 |
| 改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理委員会の積極的な運営を図る。 ・町と連携して、生徒の活動や学校の活動を積極的な広報活動を行う。 | |
| 公表方法 | <ul style="list-style-type: none"> (1) ホームページへ掲載する。 (2) P T A総会において説明する。 | |

3 添付資料

(1) 外部アンケート結果

- ① 令和7年度 生徒アンケート集計 ② 令和7年度 保護者アンケート集計
 (2) 令和7年度 自己評価のまとめ
 (3) 令和7年度 学校関係者評価まとめ